

身近な地質スポット

鬼ヶ城と獅子岩/三重県熊野市

熊野市は紀伊半島東側に位置し、その山脈によって冷たい季節風から守られた暖かな色彩の町です。人口3万人余人、フェニックスが並ぶ海岸通りを東へ1km、七里御浜がつきる所に、岩ばかりの鬼ヶ城があります。この沿岸一帯は太平洋の荒波をうけて熊野酸性岩を侵食し、いろいろな海岸地形をみせてくれます。代表的な鬼ヶ城をはじめ獅子岩、花の窟、楯ヶ崎、七里御浜といった観光地を提供してくれます。

ここでは典型的な海食地形が見られます。岩盤は、今から約1000万年前の火山活動で噴出した少し青味をおびた石英粗面岩です。この岩石は、表面がザラザラした茶褐色の、一見すると砂岩のように見えますが、石英や黒雲母の粒が目立つ岩石です。花崗斑岩と比べるとやや軟弱のためか、侵食作用を受けやすく、このような特異な地形を生みました。海水の作用でできた洞窟が海食洞と呼ばれるもので、その台地を海食台と呼んでいます。ここ鬼ヶ城は約1kmにわたる海食台で、かつての波の浸食によってできた海食洞が、今の海面よりはかなり高いところに上がっています。海面から2m、6m、9m、13m、30mの所に、少なくとも5段の海食洞が見られ、数回にわたる地盤の隆起があったことがわかります。海食洞の天井には、ハチの巣のような大小の穴のようなものが見られますが、これは海水、空気、雨水などの侵食作用を受けた結果できたと考えられ、これらの穴は、数1000個あるといわれています。



写真1 鬼ヶ城の全体像

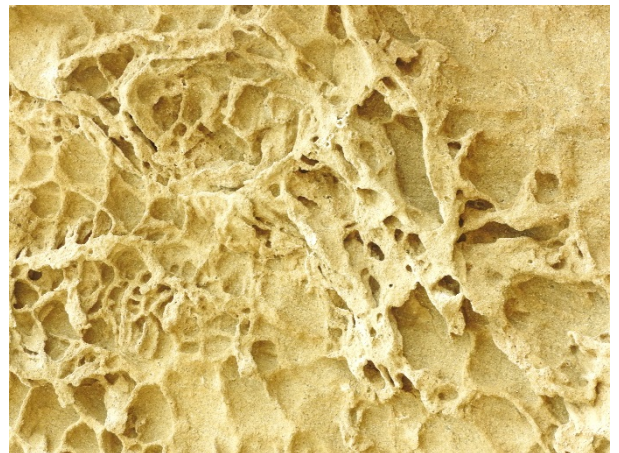


写真2 侵食の拡大図



写真3 獅子岩（撮影場所が悪くなかったのか、あまり獅子には見えません。）

回遊路の途中には、ハチの巣、行者窟、鬼の見張り場、鬼のふろおけなど、おもしろい名がついています。この中で、めがね岩といわれるものが、1954年（昭和29年）ごろまでありましたが、10年後には片方となり、1975年（昭和50年）ごろには姿を消してしまいました。それほど、侵食作用が激しいようです。

かつて海賊の多我丸がここに本拠地を構え、住民を苦しめていましたが、坂上田村麻呂が恒武天皇の命を受けて征伐したということで、海賊を鬼にたとえて、この鬼ヶ城という名がつけられたものといわれています。東口から西口へ抜けて見学すると良いかもしれません。



余談ですが、この地質スポットへ行く道中にこんなお店がありました。

場所は、尾鷲駅から約1.5km、また紀勢自動車道「尾鷲北」を降り、熊野街道沿いに走ると『風見鶏』というお店が見えてきます。

こちらのお店は、鶏を使ったラーメンが多いようで、「鳥白湯・塩」、「鶏白湯・醤油」、「鶏白湯・純粹」をメインに鶏をふんだんに使用したラーメンとなります。

私は、名古屋からの長い道のりを超えて行きましたので、あっさりの「鶏白湯・塩」を食べさせて頂きました。

見た目は、ホントにラーメン？というような感じですが、一口食べてみると…

最初の口当たりはクリーミーですが、鶏を使っているためか驚くほどのあっさりしたスープでした。

トッピングのチャーシューも、豚と鶏の2種類がのっており、どちらのチャーシューも丁寧に作られているのかとてもあっさりとした印象です。

【店名】 風見鶏

【住所】 三重県尾鷲市矢浜 2-14-61

【TEL】 0597-37-4487

【営業時間】 11:00~14:00、17:00~21:00

【定休日】 月曜日、祝日の夜

